

東アジア世界史研究センター 平成21年度 公開講座

# 遺隋・遺唐留学生と 日本文化



大雁塔

文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）

## 「古代東アジア世界史と留学生」

日時：平成21年7月11日（土）13:00～18:00  
会場：専修大学生田校舎10号館1階10101教室

# 東アジア世界史研究センターの研究計画〈概要〉

## 【研究目的】

これまでの東アジア世界を対象とした歴史研究プロジェクトは、壮大なテーマを掲げて取り組んできましたが、本プロジェクトは、追求すべきテーマを絞り込み、古代東アジア世界を流動した人々との対比を視野に入れた上で、東アジアの国々が、様々な文化・文物の流入を期待し、それを直接に担った「留学生」に焦点を絞り、テーマを設定しました。

先進文明国に位置する中国への留学生は、文化・文物を「移植」・「媒介」した存在ではありますが、その果たした歴史的な意義は、十分に明らかにされていません。

本プロジェクトは、本学大学院が発見に大きな役割を果たした「遣唐使井真成墓誌」で培われ、また中国西北大学大学院との共同研究（その成果の一部は『遣唐使の見た中国と日本』朝日新聞社、2005年、として刊行）を基礎として、1. 隋・唐代の中国を訪れた東アジアからの留学生の全貌を明らかにした上で、2. 古代東アジアの国々への影響を解明するものであります。これは、文物の「媒介者」の歴史的意義を問う試みであり、グローバル化した現代において見失われがちな「媒介者」の正当な位置づけとその果たしている重要性を確認させる点において、現代的な意義を有する研究といえます。また、研究計画を遂行する中で、日本人に限定しないで、東アジア世界の若手研究者の育成を目的の一つにしていることも、本プロジェクトの特徴となっています。

## 【研究テーマ】

- ① 遣唐使井真成墓誌関係史資料の研究
- ② 日本・中国・朝鮮の「留学生」史・資料についての研究
- ③ 政治・制度・文化・思想の接触と受容からみた東アジア世界の研究
- ④ 物の移動からみた東アジア世界の研究

### ・研究プロジェクトの参加研究者

	研究課題	参加調査・研究チーム
<b>専修大学</b>		
荒木 敏夫	東アジアにおける政治史	①・③*
矢野 建一	東アジアにおける留学生の位置	①*・③
亀井 明德	東アジア世界と中国・日本	③・④
土生田純之	東アジア世界と朝鮮・日本	③・④*
飯尾 秀幸	律令制度と東アジア世界史	②*・③
内藤 雅雄	東アジア世界と南アジア世界の交流	③・④
田中 正敬	東アジア世界のなかの朝鮮半島	③・④
松原 朗	東アジア世界における文化的人的交流	②・③
土屋 昌明	東アジア世界における文化的人的交流	②・③
巖 基珠	東アジア世界における文化的人的交流	②・③
*は各研究テーマのチームリーダー		
<b>西北大学（中国）</b>		
王 建新	東アジア世界と中国	③・④
王 維坤	東アジア世界と中国	③・④
<b>リサーチ・アシスタント</b>		
小笠原 強	専修大学大学院文学研究科博士後期課程（中国近現代史）	
窪田 藍	専修大学大学院文学研究科博士後期課程（日本古代史）	
福島 大我	専修大学大学院文学研究科博士後期課程（中国古代史）	

平成21年度公開講座 テーマ

遺隋・遺唐留学生と日本文化

プログラム

趣旨説明

13:00～13:20

荒木 敏夫

(東アジア世界史研究センター代表/専修大学教授)

講演

13:20～14:20

大橋 信弥

(滋賀県立安土城考古博物館 学芸課長)

「小野妹子・犬上御田鎌とそのふるさと」

14:20～15:20

シャルロット・フォン・ヴェアシュア

(フランス国立高等研究院 教授)

「遺唐使―帰国後の待遇について―」

15:20～15:40

休憩

15:40～16:40

関 周一 (つくば国際大学・武蔵大学他 非常勤講師)

「日本中世史研究からみた遺唐使」

討論

16:40～18:00

パネリスト: 大橋 信弥

シャルロット・フォン・ヴェアシュア

関 周一

司会・進行

飯尾 秀幸 (東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)

矢野 建一 (東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)

## ■ 講師紹介

### ■ 荒木 敏夫（あらかし としお） 専修大学文学部教授

東京都立大学大学院人文科学研究科科学専攻（博士課程）退学

【著書・論文】『可能性としての女帝—女帝と王権—』（青木書店、1999年） 『日本古代王権の研究』（吉川弘文館、2006年） 『日本の女性天皇』（小学館、2006年）

### ■ 大橋 信弥（おおはし のぶや） 滋賀県立安土城考古博物館学芸課長

立命館大学大学院文学研究科日本史学専攻修士課程修了

【著書・論文】『継体天皇と即位の謎』（吉川弘文館、2007年） 『古代豪族と渡来人』（吉川弘文館、2004年） 『日本古代の王権と氏族』（吉川弘文館、1996年） 『日本古代国家の成立と息長氏』（吉川弘文館、1984年）

### ■ Charlotte von-Verschuer（シャルロッテ・フォン・ヴェアシュア） フランス国立高等研究院教授

【著書・論文】「九世紀日本の情報輸入体制」（『アジア遊学』26、2001年） 『Le riz dans la culture de Heian, mythe et realite』（『平安時代の五穀文化』Paris: College de France、DeBoccard、2003年） 「日本古代における五穀と年中行事」（『史学雑誌』118-1、2009年）

### ■ 関 周一（せき しゅういち） つくば国際大学・武蔵大学他非常勤講師

筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科単位取得退学。博士（文学）。

【著書・論文】『中世日朝海域史の研究』（吉川弘文館、2002年） 『火縄銃の伝来と技術』（佐々木稔編、共著、吉川弘文館、2003年） 「香料の道と日本・朝鮮」（荒野泰典・石井正敏・村井章介編『アジアのなかの日本史』第Ⅲ巻海上の道、東京大学出版会、1992年） 「唐物の流通と消費」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第92号、2002年） 「明帝国と日本」（榎原雅治編『日本の時代史』第11巻 一揆の時代、吉川弘文館、2003年） 「朝鮮三浦と対馬の倭人」（五味文彦・小野正敏・萩原三雄編『中世の対外交流—場・ひと・技術—』高志書院、2006年）

### ■ 飯尾 秀幸（いいお ひでゆき） 専修大学文学部教授

東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学

【著書・論文】『中国古代社会史論』（共訳、名著刊行会、1997年） 『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008年） 「中国古代の法と社会」『岩波講座、世界歴史』（第5巻、岩波書店、1998年） 「中国古代における個と共同性の展開」『歴史学研究』（729号、1999年） 「中国国家史研究は進んだか」『歴史学研究』（782号、2003年） 「中国古代における人の移動とその規制に関する基礎的研究」『専修大学人文科学年報』（37号、2007年）

### ■ 矢野 建一（やの けんいち） 専修大学文学部教授

立教大学大学院文学研究科博士課程修了

【著書・論文】『遣唐使の見た中国と日本』（共著、朝日新聞社、2005年） 『長安都市文化と朝鮮・日本』（共編著、汲古書院、2007年） 『長安都市文化と朝鮮・日本』（共編著、三秦出版社、2008年） 「井真成研究—その後の研究動向によせて—」『人文科学年報』（37号、2007年） 「中国における入唐留学生研究の動向」『人文科学年報』（38号、2008年） 「遣唐使の派遣と春日山祭祀」『東アジア世界史研究センター年報』（1号、2008年）

## 東アジア世界史研究センター

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL／044-911-1283 FAX／044-911-1348

E-mail：east-asia@isc.senshu-u.ac.jp

主催：専修大学社会知性開発研究センター／東アジア世界史研究センター